

鹿島製油所における超低硫黄(サルファーフリー)自動車用燃料油製造設備の竣工について

1. 鹿島石油株式会社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:瀬野幸一)は、環境改善に積極的に貢献するため、本年2月から、総工費約60億円を投じてサルファーフリー(硫黄分10ppm以下)の自動車用燃料油(ガソリン・軽油)を製造するための設備を鹿島製油所(所在地:茨城県鹿島郡神栖町、所長:古山富夫)に建設してまいりましたが、本11月5日、無事竣工いたしました。
2. 鹿島製油所では、ガソリンについては脱硫装置を新設、軽油については既設の超深度脱硫装置に反応塔を1基増設し、脱硫反応の苛酷度を上げることでサルファーフリー化に対応します。今回、竣工した設備の概要は次のとおりです。
 - (1)サルファーフリーガソリン製造設備
名称:第6水素化脱硫装置
能力:26,000BSD
投資額:約45億円
工期:2004年2月6日～9月30日
施工:日揮株式会社
 - (2)サルファーフリー軽油製造設備
名称:第5水素化脱硫装置
能力:35,000BSD
投資額:約15億円
工期:2004年3月9日～10月13日
施工:日陽エンジニアリング株式会社
3. 自動車用燃料油の低硫黄化に関する国の規制では、ガソリン・軽油ともに2004年末までに硫黄分を50ppm以下とすることとなっておりますが、さらに2008年までに硫黄分を10ppm以下に低減することが求められる見通しです。
4. ジャパンエナジーグループでは、こうした規制強化に先駆けて、2005年1月からサルファーフリーのガソリン・軽油をグループの全製油所から出荷できるよう対応を図っております。



今回竣工した「サルファーフリーガソリン製造設備」(名称:第6水素化脱硫装置)

以上